

国文学研究資料館報

第39号

平成4年9月

国際日本文学研究集会について

情報資料室

武井協三

この集会は、日本文学を研究する国内および海外の研究者の交流を深め、より広い視野から我が国の文学を研究することを目的とし、昭和五二年以来、毎年十一月に開催してきた。

国際日本文学研究集会委員会を館外からも数名の方に加わっていただき組織し、情報資料室と共同利用係が事務担当となつて協力し、今秋には十六回目の集會がもたれる。

今回は当館設立二十周年の記念行事の一環として、例年より規模を拡大した集會が行われる。これを機会に、国際日本文学研究集会について、若干の紹介を試みておきたい。

集會では毎年五、九件の研究発表と二件の公開講演が行われる。例年一〇〇名近くの研究者が参加し、そのおよそ三分の一が外国人の日本文学研究者というのが、他の国文学関係の集會にはみられない、この集會の特色である。

この十年間、参加者の数は平均九五名である。最大は記念集會として規模を拡大しておこなつた第十回の一六五名、最小は第七回の六九名。とくに大きな国文学関係集會と日が重なつた年は、参加者が減少したようである。

海外からの参加者（来日中の留学生などをふくむ）の平均は三一名、そのうち三分の一が、韓国や中国をはじめとするアジア諸国か

目次

国際日本文学研究集会について・武井協三	1
お知らせ	2
第十三回国際日本文学研究集会	3
文献資料館業務報告	4
文庫資料館業務報告	4
研究情報部業務報告	6
新井栄成	6
文庫紹介②(兵庫城崎町 温泉寺)	8
整理閲覧部業務報告	9
本田廣雄	9
新収資料紹介②	11
評議員・委員等名簿	12
巻頭	14
利用者へのお知らせ	15
平成四年度秋季学会開催一覽	16

らである。ちなみに、第六回から第十回までの外国人中、アジアからの参加者の占める割合は27%であったのが、第十一回から十五回では40%に激増している。この傾向は、研究発表応募者にもみられ、最近二回の集會の発表者は、アジア人の数が、日本人と欧米人を合わせた数を上回っている。

また研究発表応募の時代ジャンルは、近代をテーマとするものが増加している。これは日本語学習の難しさ、とくに日本語古文の習得の困難さと関連しているのかもしれない。

日本文学の研究は他の学問ジャンルと異なり、日本語そのものを扱う学問であるため、日本語を母国語としない外国人にとっては、極端に困難な研究ジャンルといえる。これが外国人の日本文学研究の隘路となっていることは、否定し得ない事実である。医学や工学を学ぶための日本語とは比較し

ならない、ある意味では一般の日本人以上の日本語の能力が日本文学研究者には要求されるのである。この意味で、日本文学を研究しようとする留学生の、来日後の日語教育のありかたは、他ジャンルの留学生のそれとは区別されてしるべきであろう。

このような困難にもかかわらず、諸外国では日本文学の研究が隆盛の方向にある。外国人の日本文学研究者がごく限られていた戦後すぐの時代からみると、その数は飛躍的に増大しているといえよう。とくに近年は、韓国・中国をはじめとする欧米以外の国々での、日本文学研究者の増加がみられる。これは、いわゆる「経済大國日本」への注目からの、日本語習得熱を背景とするものかもしれないが、今後もこの方向は継続するものと予測される。

また近年の集會の特色として、若い研究者の参加が増えてきてい

ることも指摘できる。各地の大学院で日本文学を学ぶ留学生たちの、交流の場としても、この集会は、貴重な機会を提供しているといえよう。彼らにとつては、自分と同じ立場で同じ研究テーマに取り組み仲間とめぐりあえる、ほとんど唯一の場となっている。また、指導教授以外の研究者の意見を聞ける有益な機会でもある。こういった場として、とくに集会后に毎年行っているレセプションは好評を博している。

現在残念なことに、われわれは参加者から会費を徴収せねばならない状況がある。留学生たちにとって四、〇〇〇円の出費は、あるいは参加をためらわせるものではないかと懸念される。日本の国際化がさげばれてから久しい。われわれは留学生の、日本文化を学ぼうとする熱意を、真摯に受けとめなければならぬ。国際日本文学研究会は、国からの正規の予算が、まだ認められていない。この集會こそ、日本文学の分野における国際化の窓口であると自負しているのだが、関係機関の充分な理解が、まだ得られていないのは、残念なことといわねばならない。外国人研究者による日本文学研究には、たしかに言葉の問題が隘路になるが、そこをのり超えた研究には、日本人に見られない新鮮な視点が存し瞳目

させられるものが多い。また日本人による国文学研究が、世界の文学研究の中でどう位置づけられるのかを考えることも、今後の重要な課題であろう。さらに、近年の日本人の海外在住者の増加にともない、日本人の国文学研究者が海外で育っているという傾向も、新たなものとして指摘できる。

こういった点に鑑み、本研究集會はより一層の充実を計っていくべきだと考えている。

今秋の二十周年記念集會では、従来の研究発表と公開講演に加え、海外から招待した外国人研究者を交えてのシンポジウムを開催する。テーマは「近代化の中の日本文学」で、招待研究者の公開講演や研究発表もこのテーマと関連するものが多くなっている。

日本文学における近代化の問題は、すでに多くの論がつくされているが、外国人研究者からの新たな視点の提出が期待され、それを受けて日本人研究者が発言することによって、この問題に今までにない切り口が開けるかもしれないと、期待している。

詳しいプログラムは左の頁のとおり、当日の受け付けも可能なので、多くの方のご参加をお待ちしている。

お知らせ

○創立二十周年記念特別展示

十一月二日(月)～十四日(土)

午前九時三十分～午後四時三十分

(日曜、祭日、十一月六日(金)は休館)

於・当館展示室

当館の所蔵する奈良絵本、錦絵等の貴重書を中心に展示

○一般公開

十一月七日(土)

午前九時三十分～午後四時三十分

於・当館閲覧室

当館の事業概要を展示などにより紹介

○創立二十周年記念第十六回国際日本文学研究集會

十一月十二日(木)～十四日(土)

於・当館大会議室

・十一月十二日(木)

午後 研究発表

・十一月十三日(金)

午前 研究発表

午後 シンポジウム

テーマ 近代化の中の日本文学

・十一月十四日(土)

午後 公開講演

※休館日(閲覧業務を行わない日)

十一月六日(金)は記念式典を行いますので、臨時休館とします。

国文学研究資料館 創立二十周年記念 第16回 国際日本文学研究集会

16th International Conference on Japanese Literature in Japan

とき：平成4年11月12日(木)～14日(土) ところ：国文学研究資料館

11月12日(木)

- 参加者登録(受付) 12:50～
 開 会 13:20～
 あ い さ つ 小 山 弘 志 (国文学研究資料館長)
 研 究 発 表(座長 山下 宏明)
 ○戯作における開帳の見立物研究 崔 京 国 (東京大学大学院)
 ○人と名 Emmanuel LOZERAND (早稲田大学大学院)
 —鷗外の歴史小説と史伝における人名について—
 ○『沈黙の塔』前後の森鷗外 劉 岸 偉 (札幌大学助教授)
 —周氏兄弟の目を通して—
 休 憩
 研 究 発 表(座長 芳賀 徹) 15:30～
 ○福沢諭吉とレオン・ド・ロニー 谷 口 巖 (愛知教育大学教授)
 —「植てみよ花のそた、ぬ里はなし……」考—
 ○幸田露伴論 湯 沼 誠 二 (北海道教育大学教授)
 —『露伴』と十九世紀英国文学—
 ○幸田露伴と近代 栗 田 香 子 (ポモナ大学助教授)
 —「一刺劇」から「弓矢の家」への三角関係の推移—

11月13日(金)

- 研 究 発 表(座長 糸川 光樹) 10:30～
 ○モダニズムとしての私小説 中 川 成 美 (同志社女子大学助教授)
 —『仮装人物』の言説をめぐって—
 ○中西伊之助と朝鮮文壇 呉 皇 禪 (明治大学大学院)
 —朝鮮プロレタリア芸術同盟の結成と関連して—
 ○津島佑子と山姥 Amy CHRISTIANSEN (名古屋大学大学院)

休 憩

シンポジウム

13:30～

テーマ 「近代化の中の日本文学」
 パネリスト

- 鹿 野 政 直 (早稲田大学教授)
 John Whittier TREAT (ワシントン大学準教授)
 亀 井 秀 雄 (北海道大学教授)
 Jean - Jacques ORIGAS (フランス国立東洋言語文化研究所教授)
 尹 相 仁 (漢陽大学専任講師)
 William Jefferson TYLER (オハイオ州立大学準教授)
 Irmela HIJIIYA - KIRSCHNEREIT (ベルリン自由大学教授)
 平 岡 敏 夫 (群馬県立女子大学長)

コメンテーター

司 会
 レセプション

17:00～

11月14日(土)

公開講演

13:20～

- 文学の「近代化」とジャンル地図 Wolfgang SCHAMONI (ハイデルベルク大学教授)
 —明治初期文学史の構造—

休 憩

- 漂泊者萩原朔太郎 Mikolaj MELANOWICZ (ワルシャワ大学教授)

文献資料部事業報告

松野陽一

平成四年度は第一回の収集計画委員会を五月十九日に開き、その結果に基いて調査員会議（総会）は六月二日に開催、調査・収集に関する具体的な打合せを行なった。江本裕客員教授の講演「西鶴遺稿集について」があり、有志による懇親会にも多数の参加をいただき盛会裡に終了した。

本年度は昨年に続いて調査個所が百ヶ所を突破、予算の伸びはないのでやりくりが苦しいが、夏休み以降調査員の方々の活動は全国にわたって本格化し、その成果である調査カードは次々に集りつつある。感謝したい。

平成三年度国文学文献資料調査・収集の概況

一、調査

平成三年度は、本年三月末までに左の一〇一箇所（予備調査Ⅱ*印を含む）の所蔵資料計九、三五五点を調査した。

北海道東北地区（順不同、敬称略、一部略称、以下同じ）

- 北海学園大学附属図書館（北駕文庫）・函館市立函館図書館・伊達市開拓記念館・弘前市立弘前図書館・岩手県立図書館・東北大学附属図書館・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市民図書館・仙岳院・秋田県立秋田図書館・昭和町郷土文化保存伝習館・酒田市立光丘文庫・鶴岡市郷土資料館・初瀬川文庫
- 関東地区
 - 彰考館・茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・流通経済大学図書館（祭魚洞文庫）・埼玉県立文書館・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館（脇本文庫）・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・三井文庫・東京大学国文学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書館（加賀文庫・他）・尊経閣文庫・川崎市市民ミュージアム・雲英末雄
- 中部地区
 - 新潟大学附属図書館（佐野文庫）・糸魚川市歴史民俗資料館・富山県立図書館（中島文庫）・高

- 岡市立中央図書館・金沢大学附属図書館・加賀市立図書館（聖藩文庫）・石川県立図書館（李花亭文庫）・福井市立図書館（松平文庫）・山梨県立文学館・山梨県立図書館（甲州文庫）・上田市立図書館（花春文庫）・小諸市立図書館・名古屋大学附属図書館（神宮皇学館文庫）・名古屋博物館・名古屋市鶴舞中央図書館・愛知県立大学附属図書館・中京大学図書館・大須文庫・西尾市立図書館（岩瀬文庫）・神宮文庫・尾鷲市立中央公民館郷土室
- 近畿地区
 - 正教蔵文庫（西教寺）・夢望庵文庫*・園部町教育委員会（小出文庫）・京都大学附属図書館（平松家本）・京都大学文学部（頼原文庫）・立命館大学図書館・陽明文庫・蘆庵文庫・智恩寺・住吉大社・大阪女子大学附属図書館・大阪女子大学図書館*・大阪天満宮*・大和文華館・高野山大学図書館・温泉寺・白鹿記念酒造博物館
- 中国・四国地区
 - 岡山大学附属図書館（池田文庫）・広島市立中央図書館（小田文庫）・羽中山八幡文庫・光藤葆

- 光・三原市立図書館・山口女子大学附属図書館（寺内文庫）・岩国徴古館・西円寺・萩市立図書館・益田家・鎌田共済会図書館・善通寺・大洲市立図書館・徳島県立図書館（森文庫）・丈六寺・高知県立図書館（山内文庫）
 - 九州地区
 - 祐徳稲荷神社（中川文庫）・長崎県立長崎図書館・島原図書館（松平文庫）・松浦史料博物館・熊本市立図書館・臼杵市立臼杵図書館・鹿児島県立図書館・鹿児島大学附属図書館・沖縄県立図書館・石垣市立八重山博物館
 - 海外
 - パリ国立図書館*・リヨン市立図書館・リヨン印刷銀行博物館*・ギメ東洋美術館日本館*・チエスタビーティ図書館・カリフォルニア大学ロサンゼルス校
- 二、収集
- 本年三月末までに左の一〇一箇所の所蔵資料計五、五七六点を収集した。
- 北海道東北地区
- 北海学園大学附属図書館（北駕文庫）・弘前市立弘前図書館・盛岡市中央公民館・秋田県立秋田図書館・酒田市立光丘文庫・鶴岡市郷土資料館・福島県立図書館

関東地区

矢口丹波記念文庫・茨城県立歴史館・早稲田大学図書館・東京芸術大学附属図書館・宮内庁書陵部・東京都立中央図書館（加賀文庫・他）・尊経閣文庫・大倉精神文化研究所・雲英末雄

中部地区

金沢市立図書館（稼堂文庫）・金沢市立図書館（藤本文庫）・福井市立図書館（松平文庫）・名古屋市蓬左文庫（尾崎コレクション）・愛知県立大学附属図書館（古俳書一）・大須文庫・名古屋市鶴舞中央図書館・新城市教育委員会（牧野文庫）・尾市立図書館（岩瀬文庫）

近畿地区

正教蔵文庫・夢望庵文庫・京都大学文学部（頼原文庫）・陽明文庫・蘆庵文庫・園部町教育委員会（小出文庫）・大和文華館・大阪女子大学附属図書館・白鹿記念酒造博物館・温泉寺

中国四国地区

岩国徴古館・益田家・香川某家・高知県立図書館（山内文庫）

九州地区

熊本大学附属図書館（北岡文庫）・臼杵市立臼杵図書館

海外

カリフォルニア大学バークレイ校

平成四年度文献資料調査・収集計画

本年度は調査一八箇所（海外を含む）一一、八〇〇点、収集六二箇所（同）六、〇四〇点の計画を立て、順次実行に移している。

海外資料の調査・収集

一昨年から調査を承けて、本年度もパリ国立図書館、リール市立図書館ド・ロニー旧蔵書など、在仏資料、またチェヌターピーティ図書館の調査を九月二十日から十七日間、松野、小峯、山崎、鈴木、深沢が出張して行なう計画である。収集は右の諸館の他、カリフォルニア大学バークレイ校が予定されている。

第四室

本年度は客員教授として大妻女子大学文学部の江本裕教授をお迎えした。近世小説類の調査・収集のほか、昨年度の富士教授に引き続いて、特定研究の書誌学用語の整理などに御助力、御指導をいただいている。併任助教授は、前期は金沢大学教養部の木越治助教授、後期は奈良女子大学文学部の千本英史助教授をお願いしている。

その他

地区会議は、近畿地区は大阪市、

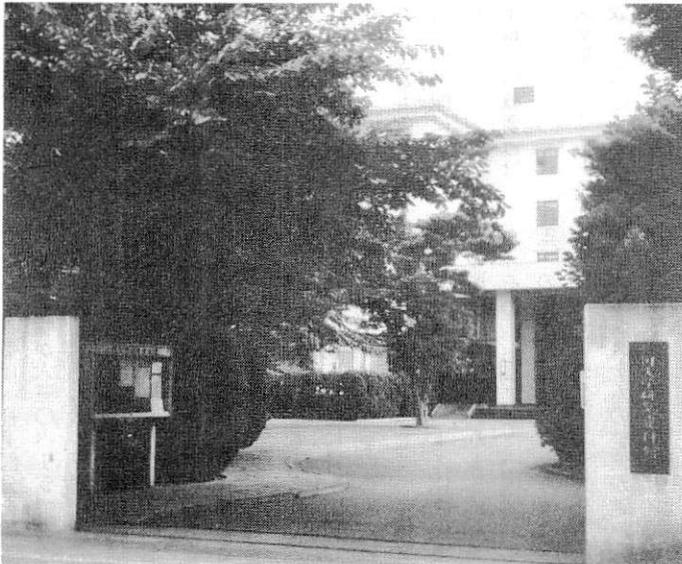
北海道東北地区は仙台市で、それぞれ十一月中の開催を予定している。

特定研究「古典籍学の確立・体系化のための研究」は五年計画の三年目、古典籍学用語集の作成作業を中心とし、奥書刊記集成などの作業も進めている。館外研究者との第一回会合を七月十日に行なった。三月三十一日付で竹下義人第三室助手が日本大学文学部に転出。四月一日付で、第一室の深沢眞

二助手が第三室に転じ、後任に辻本裕成助手が着任した。また、長年にわたって当部を支えてくれた郷古千幸補佐員が退職、新たに宮本幸子さんを迎え、小原くみ子補佐員と二人で世話に当る。

なお、調査研究報告第一三三号は三月三十一日付で編集刊行され、十本の研究報告を収録した。

（文献資料部長）



研究情報部事業報告

新井 栄 蔵

平成三年度は、前年度のデータベース室新設と、これに伴う関係室名の変更、及び、所属室員の新任などがあつて、次のような四室体制で運営された。

情報資料室 室長 武井協三
 情報分析室 室長 中村康夫
 データベース室 室長 松村雄二
 情報処理室 室長 安永尚志

四月一日付けで、松村雄二教授（共立女子短期大学文科）と、中村康夫助教授（鳥取大学医療技術短期大学部）とが着任した。又、情報処理室は、六月一日付けで松方純助教授が転出（宇宙科学研究所宇宙科学解析センター）し、その後任として、九月一日付けで原正一郎助教授（学術情報センター学術情報研究系）が着任した。

研究情報部、および各室の研究・業務の担当は、従来の通りである。

情報資料室

国際日本文学研究会（第15回）を十一月八、九日に開催、八十名の参加者があり、成功裡に集

会を終えた。これと平行し当年度は二十周年記念第十六回国際日本文学研究会の準備を進めた。開催された四回の委員会では、活発な意見が交わされ、例年の研究発表、公開講演にシンポジウムを加えることとなり、規模も三日間に拡大することが決定された。海外より招待する六名の研究者の人数が行われ、それぞれより承諾の返事を得た。これらに伴い、日本学術振興会と文部省国際シンポジウム開催経費の援助を申請し、承認された。詳細は第三頁に別掲のプログラムを参照されたい。

新聞情報の収集は、継続的なアルバイト要員の確保が難しく、作業の遅延が惹起、次年度の夏休みにより集中的に作業を行うことによつて、遅れをとりもどすこととした。

館報は例年どおり、年二回の刊行を終えた。

情報分析室

情報分析室の業務である「国文学年鑑」平成二年版の編集を完了

し、予定通り平成四年三月末に刊行することを得た。昭和六十一年度から「国文学年鑑」（昭和六十年版）の作成システムをCTS（コンピュータライズド・タイプセッティング・システム）に移行し、従来の方法を全面的に改変したため、その後数年は作業スケジュール上の試行を繰り返して刊行も遅れぎみであったが、スタッフの努力の甲斐あつて、平成二年度からはほぼ年間のスケジュールも確立し、年度末の三月の刊行が可能になつたという状況である。

平成二年版「年鑑」の概要はほぼ次の通りである。

◆ 雑誌・紀要・論文集

◆ 所載論文件数 一一、〇三七件

◆ 新聞所載論文目録 三六件

◆ 特集号一覧 三一六件

◆ 学会一覧 三八学会

◆ 学会研究発表一覧 六六三件

◆ 新指定文化財目録 一六件

◆ 平成二年度文部省科学研究費等交付一覧 二五七件

◆ 受賞一覧 六五件

◆ 計報 三七件

◆ 単行本目録 一、七二六件

◆ 収載雑誌紀要一覧 九三〇件

◆ 翻刻・複製一覧 一、〇八五件

◆ 執筆者索引 六、八六一人

総ページ数は、補遺部分を除き、平成元年版が六三〇ページであつたのに対し、三六ページ増えて六六六ページとなった。この傾向は国文学に関する学際的な研究の増加動向からみて今後も変わらないと見込まれ、年々ぶ厚くなつていくので、なんらかの対応を考慮すべき時期にきていると考えられる。

また、平成三年度には、上記のようにデータベース室の体制がほぼ整い、同室が担当している国文学論文目録データベース作成作業との関係が考慮されるようになった。その一つとして「国文学年鑑」のCTSマスターから国文学論文目録データベースマスターに変換するシステムの整備が進み、その作成手順を総合的に確立するための一環として、国文学年鑑の作成手順に関するマニュアルを作成した。

情報分析室の将来をにらんだ場合考えられる課題として、

1 論文データのコンピュータ初期入力化の問題

2 年鑑横組み化の問題

3 外国における国文学関係論文の扱いの問題

4 ページ数増大への対処といった問題がある。いずれも一

室内で解決できるような問題ではないが、徐々にそうした課題に向けての検討と実験を積み重ねていきたいと考えている。

データベース

平成二年六月に発足してより二年目に入ったデータベース室は、

国文学論文目録データベースのオンラインサービスが、平成四年四月一日から開始できるかどうかについて、諸項目についての具体的な検討を固めつつ準備作業を進め、並行して、新たに古典人名データベース作成の基礎作業を開始した。国文学論文目録データベースについては、そのデータベースとしての仕上がり度を検証すると同時に、国文学者が研究室でコンピュータを使いながらデータベースを利用することに、先駆的に道を開く意味などから、全国にモニター大学として十一大学（北海道大学・東北大学・名古屋大学・名古屋工業大学・大阪大学・神戸大学・九州大学・熊本大学・宮城学院女子大学・中央大学・中京大学）を設定した。論文データとしては、昭和六十年から昭和六十三年の四年分で、一部（七大学）は平成三年五月から、残り（四大学）は九月から、利用者番号とパ

スワードを交付し、実際にオンラインで検索できる態勢を確保していただくなどの努力をいただいた。また、モニター大学には、適正な利用料金の設定などについて、アンケートなどで行っている情報の提供をいただいた。

また、国文学研究室でのデータベース利用がスムーズに展開するように、全国の大学等の各国文学研究室・事務室・計算機センターに対して、「国文学論文目録データベース通信」（各号約九〇〇部）を五号まで作成・配布し、各大学において諸々の準備・検討に入っていただけよう、情報を提供した。その間、二度にわたって、国文学研究室及び事務室にはアンケートにご協力いただいた。

さらに、地域研究会を東北地区・中京地区・九州地区の三箇所で開催し、国文学論文目録データベースについて広く国文学者の理解を得るとともに、国文学研究データベースについて意見交換を行った。

加えて、平成四年四月一日からのオンラインサービスの開始に向けて、国文学論文目録データベース利用案内の作成・配布、国文学論文目録データベースオンライン

サービス開始のポスター作成・配布、データベース利用の手引の改訂・配布を実施し、二月から三月にかけての時期に利用申請が提出されるよう、諸準備を整えた。

言うまでもないことであるが、一つのデータベースがオンラインに乗るためには、汎用機上のシステムの対応、利用料金の設定と処理に関わる会計上の問題、利用資格と利用申込みに関する書類処理の問題、利用者に対する相談窓口業務、利用者に対する広報や利用の手引の作成と配布、諸規定の調整と整備、等々、実に多様な対応が必要であり、これ以外にデータベース本体に関わる大きな作業がある。それぞれに緻密な検討と対応が重ねられてやつと合格点に達するものであり、全館的規模のそれらの集積として、平成四年四月一日のオンラインサービス開始が実現したのである。

なお、データベース室では、研究者個人の個別の要請を広く支援する道を探る意味を込めて、第一回国文学データベース研究会（十一月二日）を開催した。講師には、園田学園女子大学教授福島昭治氏を迎え、勅撰集・私家集等を統合的に検索するデータベース

について、大変有意義なお話をいただいた。活発な意見交換があるなど、成功裡に終了したことを報告しておく。

情報処理室

情報処理システムの運用・運転を除く平成三年度事業は、以下のよう実施した。

(1) 目録作成

定常的な業務として、

① 国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録（一九九二）

② 国文学研究資料館蔵逐次刊行

物目録（一九九二）

の版下作成を行った。

(2) データ入力等

上記目録用データ及びその他のデータ合せて二二、〇三八件のデータ入力を行った。

なお、科研費に基づく東京堂書店刊行江戸喃本大系本文データ入力（一九巻、約五六六万字）を行った。

また、業務用として一〇〇字のJIS外字の作成を行った。

(3) 新規システムの導入

特別設備費によって古典本文データベース研究用等のための新システムとして、古典本文テキスト高速処理装置の導入を行った。高速文字列検索処理装置

(ゼネラル・エレクトロニック社製GESCAN)と検索処理制御装置(DEC社製VAX44000)、テキスト処理ワークステーション(サンマイクロ社製SPARCstation2)及び日本語ドキュメント入力装置(富士電機社製XP170S)による複合システムである。

(4) システム開発

以下のシステム開発を行った。

① 国文学論文目録データ作成システム

国文学論文目録データ作成及び校正に必要な、マスタ作成システム、マスタ校正システム、データ作成・校正ユーティリティの開発を行った。

② 「国文学論文目録検索システム」の機能拡張に関するシステム

国文学論文目録データベースのデータ機能拡張に伴う検索システムの機能拡張を行った。

③ 日本古典文学本文データベース形成システム

日本古典文学本文データベースの柔軟な検索機能を実現するために、RDB(関係モデルデータベース)を活用した本文データベースを構築する

ためのシステム開発を行った。

④ 日本古典文学本文データベースサービスシステム

③のシステムにより構築した本文データベースから作品や本文に関する情報を検索する館内試行サービスのためのプロトタイプを検索システムの開発を行った。

(5) 「国文学とコンピュータ」シンポジウムの開催

平成三年二月一三日に第三回「国文学とコンピュータ」シンポジウムを開催した。今回は公募を含む最新の研究成果を主とする研究会形式のシンポジウムとして開催し、九件の研究発表と講演が行われた。約一〇名の参加があり、活発な質疑があり盛会であった。

(6) 人文系共同利用機関情報システム連絡会

第六回は学術情報センターで開催し、データベースの利用開発と共同PRについて、第七回は国立民族学博物館で開催し、機関有情報データベースの共同作成及びデータベース形成方式と運用について意見交換を行った。

(研究情報部長)

文庫紹介⑩

兵庫県城崎町 温泉寺

真言宗別格本山末代山温泉寺は兵庫県城崎町に存する古刹で、縁起によると、同寺の創建は天平時代にまで遡るといふ。(但し、同寺の名が記録に表われるのは、平安末が最初といふ。菊川丞氏「但州城崎「温泉寺縁起帳」をめぐって」(芦屋ゼミ四号)参照)同寺では、歴代の住持が書写、収集した多くの古典籍を所持しており、現在、これらの典籍の大半は同寺境内にある城崎町美術館に保管されている。(但し、同美術館では閲覧業務その他を特には行なっていない。)国文学研究資料館では昭和六十年よりこれらの資料に対する調査を開始し、現在、一、〇七枚の細目カードと若干の書目カードを採り終えている。また、調査と平行してマイクロフィルム

の撮影も行ない、撮影の済んだものから順次、来館者の閲覧に供している。

その蔵書については「芦屋ゼミ三号」(S52)に、菊川氏、高橋喜一氏による詳しい報告があり、

付加えるべきものをもたないが、既調査分につき、簡単に紹介しておく。

まず、歌書関係では、「月花集拾遺」の外題を有する明応二年の奥書を持つ写本が存するが、内容は自讃歌注で、石川忠彦氏によって影印が出版されている。(S56年、和泉書院)この他にも写本刊本合わせて二十点ほどの和歌関係の典籍がある。

この他、外典では紀行、説話など若干の文学作品の刊本を持つ他、漢籍の和刻本は数多い。連歌、俳諧の写本もある。

温泉寺の蔵書の大部分を占めるのは内典であり、書写が南北朝から室町にまで遡ることができると思われるものが少なくない。内容は密教関係の物が中心である。

当館では今後も引き続き同寺の資料の調査収集にあたって行く予定である。

〈所在地〉

〒669-61 兵庫県城崎郡城崎町湯島九八五-11 温泉寺

電話 〇七九六三(二)二六六九

(文献資料部 辻本裕成)

整理閲覧部事業報告

本田 康雄

当部が担当する業務（資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等）は、平成三年度も順調に進展した。

保存用ネガフィルムの外部保管

委託は、平成元年度収集分一、三一四リールを追加委託し、総計一八、三九四リールとなった。例年実施している監査に際しては、監査実施要領に基づき当部から検査員を派遣し、保存用ネガフィルムの保管状況等を検査した。

(一)情報サービス室

(1)資料の受入

平成三年度の受入資料数は、マイクロ資料（ロールフィルム一、四八四リール、紙焼写真本三、一、二四冊）、図書（二、七四六冊）、逐次刊行物（継続受入雑誌一、六六九誌―全所蔵タイトル数三、五三―タイトル）、雑誌製本（二、九四冊）であった。その結果、平成三年度末での全蔵書数は、別表のとおりとなった。

そのほか、吉川孔敏氏より、広瀬淡窓・青邨関係資料一三五点を、また、山本幸子氏より、山本金藏氏旧蔵の古筆・古版資料二六点を御寄贈いただいた。

(2)マイクロ資料の整理

【国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九一年】を刊行した。収録書目数は六、二六四点（二十四文庫）である。

(3)図書資料の整理等

約二、四〇〇冊の図書（和古書を含む）を整理した。学術情報センターの目録所在情報サービスを利用することになったので、利用に習熟するための訓練を行い、ローカルシステムについて検討した。和古書の補修、帙作成を例年通り行った。

(4)逐次刊行物の整理

新規受入れの七四タイトルの書誌データ等を作成し、合計三、五三タイトルの【国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録一九九二年】を編集、刊行した。

(5)古典作品典拠ファイル作成事業
読みの付与、著者コントロール作業等を継続し、約三七、〇〇〇件のデータを作成した。累計で約一九七、〇〇〇件となった。

(6)古典籍総合目録作成事業

データ作成を継続して行い、約一万件の書誌データを作成した。現行データベースの点検、修正作業を昨年に引き続き行った。

(7)閲覧業務

平成三年度は、来館利用による入室者数が八、七〇四人（一日平均三二人）、文献複写が二六、六四六件（一日平均九七件）であった。前年度に比べて、入室者数が一

一%、文献複写件数が三%それぞれ増加した。文献複写に関しては、マイクロ資料の電子複写（リーダープリンターによる複写）の前年度比の伸びが一%と著しかった。利用登録者は、年度末までの累計で二六、四七九人に達した。また、相互利用（郵送による文献複写・貸出）の複写受付は、一、四九八件で、前年度に比べて三三%増加し、貸出は一二二件で、六七%増加した。

平成元年度から始まった当館所蔵原本（写本・版本）のマイクロ

化事業第三年目の平成三年度は、約三〇万コマ、一、五三九点の撮影を実施した。

なお、例年通り、四月末から五月上旬にかけて資料のくん蒸、三月末に蔵書点検を実施した。

(一)参考室

(1)参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の充実と二階閲覧室の参考開架図書の維持・管理にあたった。

(2)公開講演会及び展示

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会・展示を開催した。

・公開講演会

第34回（6月22日、於当館）

「おくのほそ道「暑き日や」の

周辺」森川昭（東京大学教授）、

「俳句の特性」澤木欣一（東京

芸術大学名誉教授）。

第35回（10月26日、於山形市・

山形大学教育学部三号館）

「三十六歌仙の伝播と享受」新

藤協三（当館教授）、「貫之の悲

嘆―土佐日記の世界―」菊

田茂男（東北大学教授）。

・第14回夏期公開講演会「江戸から東京へ―継承と創造―」（7

月25日～27日、於当館)
 25日 「こじつけ」の手法、「むだ」の意味―戯作表現の系譜― 小池正胤(東京学芸大学教授)、「詩の近代―新体詩抄」の周辺― 野山嘉正(東京大学教授)。

26日 「文明開化とお雇い外国人教師」 浅井清(お茶の水女子大学教授)、「標準語への動き」 古田東朔(鶴見大学教授)。

27日 「幕末期大坂の歌舞伎狂言」 野村喬(青山学院女子短期大学教授)、「近代小説成立前夜―埋没小説二、三をめぐって―」 平岡敏夫(筑波大学教授)。

・常設展示
 第48回 「和書のさまざま」(4月15日～6月29日)
 第49回 「源氏物語」(7月15日～10月12日)
 第50回 「近世前期の文学」(12月2日～3月14日)

・特別展示
 第19回 「新収資料展―昭和63年―平成2年度期―」(11月1日～15日)
 なお、第14回夏期公開講演会の

筆録集である「国文学研究資料館講演集13 江戸から東京へ」を刊行し、大学図書館等への寄贈のほか、希望者にも配布している。
 (整理閲覧部長)

所蔵資料統計

(平成4年3月末現在)

資料種別	点数	冊(リール)数	
マイクロ資料	マイクロフィルム*	105,748点	23,059リール
	マイクロフィッシュ	7,502点	25,450枚
	紙焼写真本		55,083冊
図書(古書及び新刊書)	29,553点	84,071冊	
逐次刊行物	3,531誌		
寄託図書	964点	4,313冊	

※他に紙焼写真による収集がある。

(13頁から)
 松本公一 同志社大学大学院文学研究科研究生
 三橋 正 大正大学総合仏教研究所研究員
 課題名「雄長老の学在―詩・聯句・狂歌・仮名草子―」

大谷 俊太 南山大学文学部助教授
 花田 富二夫 大妻女子大学短期大学部助教授
 堀川 貴司 東京大学文学部助手
 宮崎 修多 成城大学文学部講師
 課題名「近世諸藩歌集の総合的研究―藩別学芸史研究の「環」として―」

渡辺 憲司 立教大学文学部助教授
 木越 一治 金沢大学教養部助教授
 久保田 啓一 梅光女子学院大学文学部講師
 今井 良明 福岡女子大学文学部助教授
 白石 健一 文部省初等中等教育局教科書課教科書調査官
 鈴木 夏生 東京大学教養学部助手
 市古 三夫 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科助教授
 沢井 昌弘 愛知大学文学部助教授
 鉄野 弘 帝塚山学院大学文学部講師
 課題名「近世人物叢伝資料の基礎的研究」

揖斐 高 成蹊大学文学部助教授
 稲田 篤信 東京都立大学人文学部助教授
 嶋中 道則 東京学芸大学教育学部助教授
 鳥原 泰雄 皇学館大学文学部助教授
 竹下 義人 日本大学文理学部講師
 藤城 峰夫 清泉女子学院短期大学助教授
 藤野 夫 フェリス女子学院大学文学部助教授



村田春海書簡 付賀茂真淵詠草

本幅は、村田春海の書簡およびそれに付属する賀茂真淵の和歌一首を合装したものである。

春海の書簡は、竪一九・六×長さ三九・三種の巻紙で、釈文は次の通り。

秋暑未甚敷御坐候
処、御全家様御別条

無御坐被為入候や

奉伺候、拙家無異義

居申候、まことに紛冗にのみ打過、其後は

御無音のみ仕候

一、先達而御約束申上候

真淵翁真蹟、何も

しかと仕候ものは無之候

へとも

覚書にか、れ候歌

一首見出し申候ま、

即鹿末ながら装

潢申付進上仕候、永

御家蔵被下候は、辱奉

存候

七月九日

春海

節之ぬし

宛名の「節之」および年次ともに未詳。また結辞や留書の部分に欠くのは、幅物に仕立てるために当該部を切除し、本文に署名、宛名の部分を貼合わせたためと思われる。

書面は、かねて約束していた真淵の遺墨を送呈したもので、師真淵に直接、遺稿を託されたと自称する春海が、しきりにかような要望を受けたであろうことは想像に

難くない。

真淵の和歌は、縦二一・二×横六・三種の墨野四行の断簡で、

十二月四日家に会し侍るに、冬眺望を

ふる雪のしらふの鷹を手にす

ゑてむさしの原に出にける哉

とある。該歌は春海編の『賀茂翁家集』にも載り、真淵の風調を代表する一首として知られる。

ところで、真淵の歌稿で現在、天理図書館に伝存する複数のそれ

がやはり墨野紙に認められており、柱刻に「生白堂」とあることから、

江戸の老書舗戸倉屋喜兵衛より贈られたものと推定しているが、本紙も同様であろう。筆蹟も、その独特な繊細さを備えた筆意からして、まず信すべきものである。ただし、「真淵」の署名は明らかに

違和感を感じしめるもので、もとより歌稿にかような署名が存する

のも、不自然というほかはない。

そう思つて、改めて本紙をみると、和歌と署名の間に料紙を切継いだ

痕跡が認められ、のちに細工した可能性がつよい。そもそも真淵の

遺墨には、署名部分のみ疑わしい代物が少なくないが、その根源を正

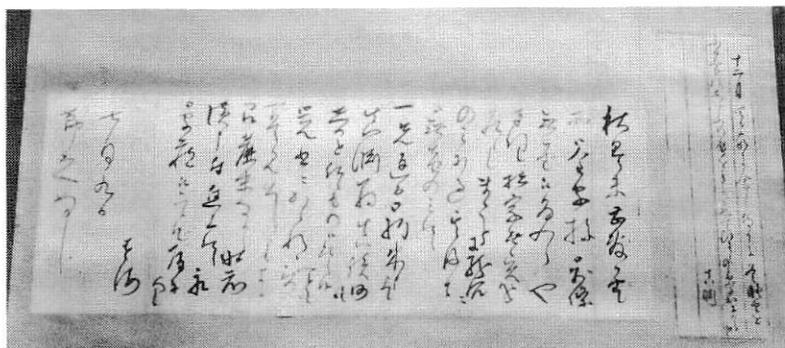
せば、春海まで遡りうる一例と言

うべきか。またこうしたことは、換言すれば、真淵はとくにその没

後、遺墨を求める人がひきもきらなかつたが、その割に生前、懐紙

色紙、短冊、画賛、扇面などのいわゆる認め物をあまり多く遺さなかつたことと無関係ではあるまい。

(文献資料部 鈴木淳)



国文学研究資料館評議員

任期 平成4年7月1日～平成6月6月30日

- 秋山 慶 東京大学名誉教授
網野 善彦 神奈川大学短期大学部教授
有馬 朗人 東京大学長
井内 慶次郎 東京国立博物館長
稲賀 敬二 放送大学客員教授、広島レゾナンスセンター長
猪瀬 博 学術情報センター所長、東京大学名誉教授
今井 源 博 権光学院大学文学部教授、九州大学名誉教授
小田切 進 日本近代文学館理事長、立教大学名誉教授
京極 純一 東京大学名誉教授
小玉 正任 国立公文書館長
小林 清治 東北学院大学文学部教授、福島大学名誉教授
佐竹 昭廣 成城大学文学部教授、京都大学名誉教授
土田 直 大阪大学名誉教授
堤 精二 国立歴史民俗博物館長、東京大学名誉教授
坪井 清三 放送大学教授、お茶の水女子大学名誉教授
秀村 選三 久留米大学比較文化研究所教授、九州大学名誉教授
尾藤 正英 川村学園女子大学文学部教授、東京大学名誉教授
藤澤 令夫 京都国立博物館長、京都大学名誉教授
山田 俊雄 成城大学長

国文学研究資料館運営協議員

任期 平成4年8月1日～平成6月7月31日

- 朝尾 直弘 京都大学附属図書館長・文学部教授
有吉 保 日本大学文学部教授
伊藤 正義 神戸女子大学文学部教授、大阪府立大学名誉教授
石井 進 国立歴史民俗博物館企画調整官・歴史研究部教授、東京大学名誉教授
大口 勇次郎 お茶の水女子大学文学部教育部長、教育学部教授
久保田 淳 成城大学文学部教授
榎尾 武 成城大学文学部教授
日野 龍夫 慶應義塾大学附属研究所所長・文庫長・教授
平澤 五郎 国文学研究資料館教授(研究情報部長)
水谷 静夫 国文学研究資料館教授(史料館)
新井 栄蔵 国文学研究資料館教授(文献資料部)
木村 雅彦 国文学研究資料館教授(文献資料部)
新藤 協三 国文学研究資料館教授(文献資料部)

国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成3年4月1日～平成5年3月31日

- 浅野 三平 日本女子大学文学部教授
野口 元大 上智大学文学部教授
長谷川 端 中京大学文学部教授
福井 和夫 上野学園大学看護学部同大学日本看護資料室長教授
安井 久善 いわき明星大学人文学部教授

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

- 奥田 勲 聖心女子大学文学部教授
片桐 洋一 関西大学文学部教授
白石 梯三 福岡大学文学部教授
長友 千代治 京都府立大学文学部教授
名和 修 助陽明文庫文庫長

文献目録委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

- 池内 輝雄 大妻女子大学文学部教授
揖斐 高 成蹊大学文学部教授
遠藤 宏 成蹊大学文学部教授
久保田 淳 東京大学文学部教授
小島 孝之 立教大学文学部教授
小町 照彦 東京学芸大学教育学部教授
瀬戸 仁 中央学院大学教育学部教授
滝藤 満義 横浜国立大学文学部教授
野山 嘉正 東京大学文学部教授
浜野 卓也 (元山口女子大学教授)
原道生 明治大学文学部教授
安田 尚道 青山学院大学文学部教授

共同研究委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

- 稲賀 敬二 放送大学客員教授、広島レゾナンスセンター長
大曾根 章介 中央大学文学部教授
曾倉 岑 青山学院大学文学部教授
鳥越 文蔵 早稲田大学文学部教授
中野 三敏 九州大学文学部教授
水原 一 駒澤大学文学部教授

情報処理システム運用委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

- 石岡 晴久 東京大学大型計算機センター教授
岡 耕二 上智大学文学部教授
井上 如 学術情報センター教授
杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部教授
千代 正明 国立国会図書館総務部情報処理課長
土田 衛 佛教大学文学部教授
照井 武彦 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授
西村 啓介 東京農工大学工学部教授
濱田 彦彦 京都大学教養部教授
星野 聰 京都大学文学部教授
堀内 秀晃 青山学院大学文学部教授
水谷 静夫 助計計画研究所理事
村上 學 名古屋工業大学工学部教授

国際日本文学研究集会委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

- オシジエイアンター
桑川 光樹 清泉女子大学文学部教授
芳賀 徹 明治学院大学国際学部教授
平岡 敏夫 国際日本文化研究センター教授
福田 秀一 群馬県立女子大学文学部教授
山下 宏明 国際基督教大学文学部教授
名古屋大学文学部教授

古典籍総合目録委員会委員

任期 平成3年4月1日～平成5年3月31日

- 浅野次郎 東京大学附属図書館事務部長
- 雨森弘行 学術情報センター事業部長
- 井坂清信 国立国会図書館図書部古典籍課主任
- 柴田光彦 跡見学園女子大学文学部教授
- 堤精二 放送大学教授
- 益田宗 東京大学史料編纂所所長
- 森川彰 梅花女子大学文学部教授

国文学文献資料調査員

任期 平成4年4月1日～平成5年3月31日

- 加藤幸一 奥羽大学文学部講師
- 高橋伸幸 札幌大学女子短期大学部教授
- 田中初恵 宮城学院女子大学文学部非常勤講師
- 永田信也 北海道教育大学旭川分校助教授
- 錦仁 秋田大学教育学部教授
- 原貞義 東北大学教養部教授
- 播摩光寿 西学院短期大学助教授

(関東)

- 岩田秀行 跡見学園女子大学文学部助教授
- 大岡賢典 流通経済大学経済学部教授
- 岡中正行 帝京女子短期大学助教授
- 落合博志 法政大学第二教養部講師
- 猿木健一 シオン短期大学教授
- 鈴木俊幸 東京大学教養部助手
- 鈴木隆 横浜国立大学教育学部助教授
- 中嶋隆 フェリス女子学院大学文学部助教授
- 藤江峰夫 東京成徳短期大学助教授
- 古相洋治 国学院大学・明治大学兼任講師
- 山下琢巳 東京成徳短期大学講師

(中部)

- 石坂妙子 新潟大学教育学部助教授
- 大谷俊太 南山大学文学部助教授

大西紀夫

富山女子短期大学講師

- 加藤洋介 愛知県立女子短期大学講師
- 神谷勝彦 名古屋文理短期大学講師
- 小林泰三 洗足学園魚津短期大学講師
- 島西善三郎 皇学館大学文学部助教授
- 下西孝庸 上越教育大学学校教育学部助教授
- 鈴木悦生 新潟大学教養部教授
- 須田清生 静岡県立大学短期大学部教授
- 太刀川宏 静岡県立大学短期大学部講師
- 長野弘明 名古屋大学文学部助教授
- 西村聡 金沢大学文学部助教授
- 服部仁 同朋大学文学部助教授
- 安田俊太郎 新潟大学文学部教授
- 柳文吉 南山大学文学部教授
- 綿邊信昭 同朋大学佛教文化研究所所員
- 渡邊昭 富山女子短期大学講師

(近畿)

- 大高洋司 甲南女子大学文学部助教授
- 大谷健二 神戸山手女子短期大学講師
- 小谷健彦 大谷女子大学文学部助教授
- 塩崎俊彦 神戸山手女子短期大学助教授
- 中西治彦 相愛大学人文学部教授
- 中前志治 京都女子大学文学部講師
- 藤平志治 神戸女子大学文学部講師
- 母利司朗 岐阜大学教育学部助教授

(中国・四国)

- 會田実 四国大学短期大学部講師
- 浅野日出男 山陽女子短期大学教授
- 蘆田耕一 島根大学法文学部教授
- 石川一 広島女子大学文学部教授
- 伊藤学 山陽女子短期大学助教授
- 岡部由文 就美女子大学文学部助教授
- 佐木亨 徳島文理大学文学部講師
- 白井宏 四国大学文学部教授
- 杉本伸宏 安田女子大学文学部助教授
- 田村憲治 愛媛大学法文学部教授
- 原水樹 徳島大学総合科学部教授
- 松原秀明 金刀比羅宮図書館嘱託

宮田尚

梅光女学院大学教授

- 山口眞琴 高知大学人文学部助教授
- 吉山裕樹 比治山女子短期大学助教授
- 池宮正治 琉球大学法文学部教授
- 井上敏幸 福岡女子大学文学部教授
- 小川豊生 鹿児島女子大学文学部助教授
- オバトキヤンベル 九州大学文学部講師
- 妹尾好信 大分大学教育学部助教授
- 田中道雄 佐賀大学教養部教授
- 森正人 熊本大学文学部教授
- 山田洋嗣 福岡大学人文学部助教授

国文学研究情報研究専門員

任期 平成4年4月1日～平成5年3月31日

- 青木周平 国学院大学文学部助教授
- 青山毅 (元四国女子大学文学部助教授)
- 鈴木豊 文京女子短期大学助教授
- 高木まさき 文部省初等中等教育局教科書課教科書調査員
- 棚町弥 園田学園女子大学文学部助教授
- 辻勝美 日本大学文学部助教授
- 前田雅之 東京女子短期大学助教授
- 唐沢正実 鷺宮高等学校教諭
- 竹本幹夫 早稲田大学文学部教授
- 山口明穂 東京大学文学部教授

共同研究員

任期 平成4年4月1日～平成5年3月31日

- 佐藤弘夫 東北大学文学部助教授
- 大久保良峻 早稲田大学文学部講師
- 佐藤眞人 国学院大学非常勤講師
- 曾根理人 東北大学文学部助手
- 福原敏 国立歴史民俗博物館助手
- 松蘭斉 愛知学院大学文学部講師

課題名「中世天台仏教の地方伝播とその受容に関する包括的研究」

(10頁へ続く)

彙報

委員会日誌

平成4年

5月19日 国文学文献資料収集

計画委員会(第一回)

6月2日 国文学文献資料調査

員会議(総会)

7月9日 共同研究委員会(第

一回)

7月20日 文献目録委員会(第

一回)

8月11日 国際日本文学研究集

会委員会(第一回)

9月4日 文献目録委員会(第

二回)

評議員会の開催について

本年度第一回評議員会が平成四年七月十七日(金)に開催され、会長に秋山評議員が、副会長に土田評議員がそれぞれ就任した。議事は、国文学研究資料館長の選挙手続、管理運営の概況、平成三年度事業報告及び平成五年度概算要求について評議が行われた。

本年度第二回評議員会が平成四年九月十七日(木)に開催され、議事は、国文学研究資料館長候補者の選考について評議が行われた。

運営協議員会の開催について

本年度第一回運営協議員会が平成四年六月十七日(水)に開催され、議事は、管理運営の概況、平成三年度事業報告及び平成五年度概算要求について協議が行われた。

本年度第二回運営協議員会が平成四年八月二十日(木)に開催され、会長に本田運営協議員が、副会長に有吉運営協議員がそれぞれ就任した。議事は、国文学研究資料館長候補者の推薦及び管理運営の概況について協議が行われた。

本年度第三回運営協議員会は平成四年九月三日(木)に開催され、議事は、国文学研究資料館長推薦候補者の選定について協議が行われた。

外国出張

安藤 正人

渡航先 カナダ・アメリカ合衆国

目的 アメリカ記録史料科学者協会第五十六回

年次大会・第十二回国際文書館会議出席及び米国文書館事情調査のため

期間 平成4年9月5日

平成4年9月27日

海外研修旅行

丑木 幸男

渡航先 カナダ・アメリカ合衆国

目的 第十二回国際文書館

会議出席及び文書館

運営方法研修のため

期間 平成4年9月5日

国文学研究資料館永年勤続者表彰

国文学研究資料館永年勤続者表彰規程に基づき、次の方に表彰状

を授与し、記念品として銀杯を贈呈した。

○平成4年5月1日付

歌野 博(整理閲覧部情報サー

ビス室・情報管理係長)

人事異動(平成4年3月)平成4

年8月)

○平成4年3月31日付

(教育職員)

(辞職)

竹下 義人(文献資料部助手)

(日本大学へ)

宮崎 修多(研究情報部助手)

(成城大学へ)

加藤 洋介(整理閲覧部助手)

(愛知県立女子短期大学へ)

○平成4年4月1日付

(採用)

辻本 裕成(文献資料部助手)

相田 満(研究情報部助手)

(東京都立本所工業高等学校教諭か

ら)

小川 靖彦(研究情報部助手)

(昇任)

丑木 幸男(史料館教授)

(同助教授から)

山田 哲好(史料館助教授)

(同助手から)

(客員教授)

江本 裕(大妻女子大学教授)

(平成4年4月1日)平成5年3

月31日)

(併任)

木越 治(文献資料部助教授)

(金沢大学助教授から)

(平成4年4月1日)平成4年9

月30日)

○平成4年6月1日付

(客員教授)

藤原 鎮男(神奈川大学教授)

(平成4年6月1日)平成5年3

月31日)

利用者へのお知らせ

◆休室日及び閲覧時間の変更について
五月より、職員の完全週休二日制実施に伴い、土曜日を休室としましたが、平日の閲覧時間は前後三十分ずつ延長しています。

(一)閲覧時間

九時～十七時

(二)複写受付時間

九時三十分～十五時三十分

(三)資料請求受付時間

九月三十分～十二時、十三時～十六時三十分

(四)休室日

①日曜日、土曜日、祝日、振替休日
②毎月末日(日・土の場合は直前の金曜日)

③資料くん蒸期間(四月末～五月にかけて五日間)
④年末年始(十二月二十七日～一月五日)

⑤蔵書点検期間(三月二十五日～三月三十一日)

⑥その他

今年度は、当館の創立二十周年にあたります。そのため、十

一月六日(金)に式典・祝賀会を予定しており、閲覧室は休室となります。ご了承ください。

◆来館できないかたへ

(一)相互協力サービス

相互協力サービスは、図書館・文庫等が所蔵資料を互いに借用、または複写し合うことによつて、

単独では限界のあるサービス能力を補強するものです。所属している機関の図書館に申し込むだけで当館所蔵資料の複写や閲覧ができます。貸出できる資料は、紙焼写

真本(ただし、サービス区分A、Bのもの)と圖書(ただし、和古書、参考開架図書、損傷しやすい圖書を除く)で、一機関当たり十点または十五冊以内、期間は、送日及び返納日を含めて三十一日間となっています。文献複写に関しては、各館所定の複写申込書に必要事項を記入して郵送してください。詳細は、リーフレット「共同利用のてびき」相互協力サービス案内」をご覧ください。

なお、今年度より、資料複写料金徴収猶予の取扱いをしてい

ますので、公私立大学等の図書館からの図書や雑誌類の複写申込に対して迅速に対応できるようにしました。手続き等は情報サービス係にお問い合せください。

また、大学等に所属していないかたからの郵便での複写申込も受け付けています。資料名、請求記号、複写方法等を明記してお申し込みください。

(二)レファレンス
特定の主題、分野、作品に関するものから、国文学(特に古典文学)一般にわたり、主に資料探索についての種々の質問や照会に応じています。文献の所在情報、複製・翻刻本、注釈書に関する情報、その他研究情報一般について、文書で質問をお寄せください。

なお、当館のマイクロ資料、図書、雑誌等の所蔵状況については電話でも受け付けています。

(三)オンライン検索サービス(有料)
①データベースの種類
マイクロ資料目録データベース、和古書目録データベース、国文学論文目録データベースの

三種類があります。
③利用手続き
利用申請書を提出し、承認を得てください。詳しくは「データベース利用の手引き」(平成四年改訂版)をご覧ください。

また、データベースについての問い合せは、総合案内(内線四二四)へお願いします。
③利用形態
・遠隔利用……大学間コンピュータネットワーク経由、または自前のパソコンとモデム等の接続装置を用いて電話回線経由で利用できます。
・来館利用……当館二階閲覧室カウンター脇の端末で利用できます。現在、利用申請受付は、九時三十分から十一時三十分までで、午前中のみ利用可能です。

◆新指定貴重書
このたび、新たに次の資料が貴重書に指定されました。これによって、当館の貴重書は、計七十五点となりました。

「光源氏一部連歌奇合」(写)

国文学論文目録データベースの

平成4年度 秋季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

解釈学会 ①〒101 千代田区神田神保町2-46 教育出版センター内03-3239-5438 ②8月21日 ③国文学研究資料館

歌舞伎学会 ①〒169 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②12月12日 ③劇学学園女子大学

訓点語学会 ①〒192-03 八王子市東中野742-1 中央大学文学部国文学研究室内0426-74-3789 ②10月23日 ③大分文化会館

芸能史研究会 ①〒606 京都市左京区浄土寺真如町77 紫雲荘6号室075-781-8718 ②12月5日 ③早稲田大学文学部

計量国語学会 ①〒167 杉並区善福寺2丁目 東京女子大学3号館118号室03-3395-1211内339 ②9月19日 ③国立国語研究所

国語学会 ①〒113 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ②10月24、25日 ③大分コンベンションセンター、大分大学

上代文学会 ①〒175 板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学304研究室03-3935-1111内304 ②平成5年5月16～18日 ③山口大学

昭和文学会 ①〒101 千代田区猿樂町2-2-5 笠間書院内03-3295-1331 ②10月3日 ③立命館大学

説話・伝承学会 ①〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学国文学研究室内075-251-3421 ②平成5年2月23日 ③札幌大学

説話文学会 ①〒168 杉並区永福1-9-1 明治大学和泉校舎法学部林雅彦研究室内03-3322-3151

全国大学国語教育学会 ①〒673-14 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学言語系教育研究室内0795-44-1101 ②10月10、11日 ③鳥取大学教育学部

全国大学国語国文学会 ①〒101 千代田区猿樂町1-3-1 桜楓社気付03-3295-8774 ②10月31日、11月1日 ③信州大学

中古文学会 ①〒102 千代田区三番町6 二松学舎大学文学部国文学科研究室内03-3261-7406内260 ②10月17、18日 ③愛媛大学

中世文学会 ①〒192-03 八王子市東中野742-1 中央大学文学部国文学科研究室0426-74-3789 ②10月10～12日 ③高志会館(富山県富山市)

日本演劇学会 ①〒169 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②11月21日 ③大阪大学文学部

日本音声学会 ①〒110 台東区東上野3-25-6 蒼洋社ビル5F03-3839-3957 ②10月3、4日 ③独協大学

日本歌謡学会 ①〒630 奈良市高畑町 奈良教育大学真鍋研究室内0742-27-9153 ②10月24、25日 ③國學院短期大学(北海道滝川市)

日本近世文学会 ①〒171 豊島区目白1-5-1 学習院大学日本語日本文学科諏訪春雄研究室内03-3986-0221内766 ②11月14、15日 ③大阪大学文学部

日本近代文学会 ①〒156 世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内03-3329-1151 事務取扱〒113 文京区弥生2-4-16 学会センタービル日本学会事務センター内03-3817-5801 ②10月24、25日 ③早稲田大学文学部

日本口承文芸学会 ①〒112 文京区白山5-28-20 東洋大学東洋学研究所内03-3945-7483 ②平成5年6月6、7日 ③東洋大学白山校舎

日本国語教育学会 ①〒112 文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内03-3941-3420 ②8月8、9日 ③筑波大学附属小・中学校、国立教育会館虎の門ホール

社団法人 日本語教育学会 ①〒107 港区赤坂1-8-10 第9興和ビル内03-3584-4872-3 ②10月3、4日 ③南山大学

日本児童文学学会 ①〒182 調布市緑ヶ丘1-25 白百合女子大学児童文化研究室気付03-3326-6910 ②10月24～26日 ③千葉大学

日本社会文学会 ①〒102 千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部西田勝研究室内03-3264-9751 ②11月21～23日 ③姫路市

日本比較文学会 ①〒573 枚方市北片鉦町16-1 関西外国語大学阪上善政研究室内0720-56-1721 ②11月20、21日 ③広島女学院大学

日本文学協会 ①〒170 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月7、8日 ③東京都立大学

日本文学風土学会 ①〒214 川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学文学部国文学科内044-911-1036 ②11月7、8日 ③二松学舎大学

日本文芸研究会 ①〒980 仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内022-222-1800内2503 ②11月14日 ③東北大学

日本文体論学会 ①〒110 台東区下谷1-5-34 三修社内03-3842-1711 ②11月27、28日 ③梅光女学院大学

日本方言研究会 ①〒115 北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-3900-3111 〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事0426-77-2135 ②10月23日 ③大分大学(大分文化会館)

俳文学会 ①〒663 西宮市戸崎町1-13 武庫川女子大学第三学舎島津忠夫研究室内0798-67-0079 ②10月24～26日 ③熊本女子大学

表現学会 ①〒730 広島市中区東千田町1-1-89 広島大学総合科学部日本文学研究室内082-241-1221

万葉学会 ①〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内06-605-2413-4 ②10月3～6日 ③高岡市万葉歴史館

紫式部学会 ①〒230 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部日本文学科学研究室内045-581-1001内242 ②12月5日 ③学習院大学

和歌文学会 ①〒108 港区三田2-15-45 慶應義塾大学文学部国文学研究室内03-3453-4511 ②10月24～26日 ③慶應義塾大学 三田校舎

和漢比較文学会 ①〒468 名古屋市中白区高宮町1302 名古屋女子大学日本文学科野崎研究室内052-801-1133 ②9月26～28日 ③北海学樹大学

国文学研究資料館報 第三十九号
平成四年九月発行
編集・発行者

国文学研究資料館

東京都品川区豊町一、六、一〇

郵便番号一四二

電話三七八五七三二一(代)

印刷所 株式会社 三興